

第3回 NPO おたがいさま会議 議事メモ

●日時：2020年6月2日（火）16時00分～17時00分

●場所：WEB会議（ZOOM）

●参加団体：33団体（運営8団体含む）

●参加人数：36名（運営スタッフ12名含む）

●内容：

1. 課題提起

■のわみ相談所・三輪氏

25年前に名古屋市でホームレスの支援活動を始める。活動自体は善意で成り立っている
ので、おたがいさまの意識が息づいている。今回のコロナ禍では、住居、食料を中心に支援
を行っている。住→食→衣の優先順位で考え、住が一番重要と考えている。令和2年3月以
降食糧支援が増えた。同時に外国人の雇止め問題の相談が増えた。例えば、インド人の方で
今年の1月に病気になり復帰をしようとしたら、コロナの影響で復帰できずホームレスに
なった。そのため、のわみ相談所でシェルターを案内した。ただ、もともと調理師のビザで
来ていたため、ほかの仕事には就けない状況だった。特別な申請をして他の仕事に就けるよ
うにしたが、1日4時間しかビザの関係で働けない状態。こういった方が、今後どんどん増
えていくことが予測される。コロナ禍の第2波、第3波の影響で外国人、非正規社員の就
労が追いやられる危惧がある。また、女性の相談者も増加している。多くは非正規雇用者だ
が、DVで居場所がない方もおられる。今回のコロナ禍は「人間の在り方の問題提起」だ。
人間生きていく上で、住む場所は基本。住があって人間は成長をしていく。愛知県内の多く
の方が今回のコロナ禍で家をなくすことを見据えれば、各自治体で緊急シェルターの常設
し、せめて中核市は独自のシェルターが必要ではと考える。

Q：シェルターに入所するような困っている方は、どこにいるか？どういった状態なのか、
状況が見えない。のわみ相談所さんはどのように状況を掴んでいるのか？（Co.栗田）

A：25年の活動の中でみんなに理解をしてもらえた。ネット検索や行政を通じて問い合わせ
をされる方が多い。行政とも密な関係を築いてきた。一宮市だけではなく、愛知県内から情
報が入ってくる。我々のような団体が増えてほしい。

Q：おたがいさま会議を通じて、のわみ相談所に何かしたいと思ったら、どんなことができ
るのか？（Co.栗田）

A：障がい者支援、便利屋部門、リサイクル部門、無料食堂、子ども食堂、日常の相談など
様々な事業があるので、みなさんにボランティアをしてもらえると助かる。また、フードバ
ンクへの支援も有難い。

Q: のわみ相談所の支える側の体制はどのようになっているのか? (Co.根岸氏)

A: 活動5原則の「当事者によって拡大強化される」の考え方の基、のわみ相談所から支援を受けている方自身がボランティアに参加している。また、一宮市の「市民が選ぶ市民活動支援制度」で毎年助成金を得ているほか、投票してくれた約4000名の市民の人的・物的支援も大きな力になっている。

Q: 今回のコロナ禍で食料の支援で配送等の困難はどう対応したのか? (Co.根岸氏)

A: シェルターの入居者が引き取りに行く。または、様々な企業が食料をもってきてもらえる流れができています。

Q: 今、シェルターで受け入れている外国人のサポートについて、連携している他の団体はあるか? (NPO 法人多文化共生リソースセンター東海・土井氏)

A: 東海外国人支援ネットワークはじめ多くの団体と連携している。入国管理局との懇談も行い、様々な情報共有を行っている。

Q: 長年リサイクル事業に取り組んできた。コラボできそうか? (Co.萩原氏)

A: 大変ありがたい。シェルターの方が自立をするときに、リサイクル品を無償又は、低価格で提供しているので、連携ができれば有難い。

Q: 密接になりがちな個別支援が多いですが、感染対策としてボランティア・スタッフはどのような対処をされているか? (RSY 浦野)

A: もともと子ども食堂は毎週土曜日開所、大人向けの食堂は365日開所していたが、今年の3月からは食堂での配食をやめ、手渡しでお弁当を配っている。スタッフ等はマスク着用などで感染防止に努めている。

Q: のわみ相談所さんでのマスク・消毒液等は足りているのか? (RSY 浦野)

A: コロナ禍の当初は不足していたが、自分たちで手作りマスクを作成したり、寄付でいただいたりした。現在は不足していない。

Q: 子どもの無料食堂について教えてください。このボランティアから今後、子どものために何につなげていきたいと思っているか? (株式会社 愛和物産・千玉氏)

A: 子ども食堂で食事をする前に無料の学習塾を開催している。それにより、高校への合格者や不登校の支援につなげることができた事例もある。子どもの将来につなげたい。

Q: 相談にいらっしゃる外国の方の国籍はどういう状況か? またコロナ禍において変化はあったか? (NPO 法人ル・スリール・ジャポン・石田氏)

A：のなみ相談所箇所当時は、日系ブラジル人・ペルー人が多かった。その後は技能実習生関係で中国人が増えた。最近では、様々な国籍（ベトナム・中国・南米系）の方が増えたが、ブラジル系の方は相変わらず多い。

2. 前回会議での話題に対する情報提供

ボランティア活動における留意事項の参考として、各団体で活用されている情報を紹介。

■名古屋市市民活動推進センター・増田氏

名古屋市が公開しているガイドラインを紹介。

何か調べるときは、「国における新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が厚生労働省から上がっているので、それらを見ていくと方針の変化が見やすくなっている。

→ <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633503.pdf>

- ・市が主催する催物（イベント等）にかかわるガイドライン※別紙参照
- ・市有施設の開館に向けたガイドライン※別紙参照

■名古屋市社会福祉協議会・野川氏

名古屋市が共有した文書や内閣官房通知等市の通知を踏まえ、名古屋市社協が考えたガイドラインを作成した。※別紙参照

→それぞれの活動に準じたガイドラインが出てきている。この会議でも引き続き情報収集を行い、情報を公開していく（Co.小池氏）

3. 情報共有

■助成金の紹介/NPO 法人ボランタリーネイバーズ・青木氏

休眠預金を活用した助成金の説明

- ・助成額 総額 40 億円
- ・現在は資金分配団体の公募を行っている（6/12〆切）
- ・7月上旬から資金分配団体による実行団体公募が行われる予定
- ・要件が緩和される（自己資金 20%の確保を求めない、評価実施について中間評価は実施しない等）※別紙参照

4. 参加者コメント

愛知中小企業家同友会・平沼氏

同友会の立場としては発言できないが、のなみ相談所・三輪さんの話を聞いて、自社でも何かできることがあるのではと感じた。次回からもぜひ参加していきたい。

5. 次回の子定

2020年6月9日（火）16時00分～17時00分